出身者からの声

かたご通信を読んだ方から寄稿頂きましたのでご紹介します。
今後も募集していますので、ぜひ声をお寄せください！

私は川舟を離れてからもう 62 年になります。当時は楽し行事が少なく、その中で一番楽しかったのがお盆でした。赤飯を食べられることがとても嬉しかった。そんな時代でした。

お盆と言えばなんと言っても盆踊りです。貝沢、若畑、松森子とよく踊りに出かけたものです。今は少子化が進み、どんな盆踊りになっているのか見たいものです…。

私は今年の 4 月、80 歳になりました。いくつになってもふるさとへの想いがあるものです。係りの役員さん、頑張ってください。ありがとう…。

川舟出身　昭和 29 年卒　富田　達夫さん

読ませていただいて、ずいぶんと長い事、忘れかけていた子供の頃の懐かしい思い出が蘇えりました。自分達が参加していた祭りが今（現在）に繋がっていると知り驚きました。

また、楽しかった「豆ぬすみ」が今も続いていて、嬉しいです。とてもユニークで楽しい行事だったので、子供達や孫達にも話をしておりました。でも、近頃、子供さんの人数が少なくなってきているというのは残念ですね。いつまでも長く続いて欲しいものです。

それから、他県から移り住まれておられる方や、Uターンされている若い方がおれるのは、頼もしい限りですね。毎回楽しみにして家族で読んでいます。

若畑出身　昭和 39 年卒　渡部夕起子さん

地域からのお知らせ

	貝沢	若畑	川舟
1月1日		新年交賀会	
2日	新年交賀会	書初め会	新年交賀会
3日	書初め会	スノーバスターズもやります	書初め会
6日	出初め式		出初め式
13日	冬まつり・どんと祭		
2月9日	雪あかり		
3月3日	沢内教育振興会川舟実践班雪まつり		

本情報誌は、地域の出身者や所縁（ゆかり）のある方にお送りしてます。また、届いてない方がおりましたら、ご住所をお知らせください。バックナンバー含め、お送りいたします！

【お詫びと訂正】かたご通信第５号で紹介した「母ちゃんハウス『わがや』」ですが、
営業時間を 11:00 ～ 16:00 とご紹介しましたが、実際は 11:00 ～ 17:00 の間違いでした。
お詫びして訂正させて頂きます。

かたご通信 vol.6　2019 年 1 月　日発行
発行者／貝沢若畑川舟ふるさと交流実行委員会
事務局／西和賀町ふるさと振興課　岩手県和賀郡西和賀町川尻 40-40-71　TEL: 0197-82-2111

ふるさと貝沢・若畑・川舟の今と、これからの暮らし情報をお届け

2019.1

かたご通信

vol.6

朝霧晩秋

貝沢・銀河の森（平成 30 年 11 月撮影：高橋　翔）

西和賀にも冬将軍がやってきました。例年より遅かったと思いますが、根雪になりそうな降り方です。

冬ならではの行事で、家に閉じこもりがちな各家庭に楽しみを与えてくれる「雪あかり in にしわが」は２月の第２日曜日に開催されます。貝沢から川舟までの各公民館に創意工夫された雪あかりが造られます。

そして３月の第１日曜日には、第 40 回を迎える「沢内教育振興会川舟実践班雪まつり」がありますので、ふるさと応援団の参加を期待しております。例年３～５人の方に応援に来て頂いています。

なお、これまで皆様よりふるさとへの投稿、ご寄付もお届け頂き、大変ありがとうございました。有効に使わせて頂きます。引き続き、皆さんからお便り頂ければ嬉しいです。

かたごの里委員会委員長
（川舟区長）
中川　昭彦

平成最後の初冬（平成 30 年 12 月撮影田中實）

貝沢

高下岳もさと田もすっかり雪化粧ですが、今年は例年より少し遅い根雪となりそうです。

ひこばえの田圃には野うさぎの足跡が。前年のように大雪とならない事を祈りながらの師走です。

ふるさとの今

今語り

貝沢・若畑・川舟のそれぞれの今の風景を紹介します。

防災収穫祭の様子（平成 30 年 10 月撮影藤原輝夫）

若畑

10 月 28 日、恒例の防災収穫祭を、今年は県の地震体験車「防災そばっち号」を迎えて開催することができました。避難訓練、消火訓練の後、念願の地震体験訓練も行いました。いざという時にきっと役立つものと思います。その後炊き出し訓練を行い、消防署の講評を頂いて、ご飯、豚汁、お餅の楽しい収穫祭を行ないました。

敬老会の様子（平成 30 年９月撮影）

川舟

９月９日、沢内バーデンにて第 87 回川舟敬老会を開催しました。

川舟保育所の園児４名には、「さんさ里唄」を元気いっぱいに踊って頂きました。現在は園児が８名に増えています。婦人会には「沢内甚句」、「チャグチャグ馬コ」を踊って頂き、さらには「大きなカブ」の劇もありました。

故郷の人

大澤　貴成（たかなり）さん (27)【若畑】

西和賀高校卒業後、自衛隊で自衛官として４年間勤務。その後盛岡で数年働き、平成 30 年の６月に実家にＵターン。男４人兄弟の末っ子。現在は両祖父母と両親の５人で暮らしています。

ボート部に打ち込んだ高校時代

西和賀高校時代はボート部に所属し、３年間競技に打ち込んだ貴成さん。

１年生の時は、ボートの進む方向やペース配分の采配を行う舵手１人と漕ぎ手４人の計５人で戦う『舵手つきクォドルブル』を。２年生の時はボート競技の中で唯一の個人種目である『シングルスカル』に打ち込み、３年生でまた『舵手つきクォドルブル』に戻って頑張っていた。競技成績を聞くと、なんと東北大会まで勝ち進んだこともあるという。長身でガッチリとした体格の貴成さん。自衛隊に入隊したのもうなずける。

西和賀高校を卒業した後は、自衛隊で４年、盛岡で数年勤務した後、生まれ故郷である西和賀町にＵターンしてきた。

戻るきっかけは何かありましたか？と聞くと、「うーん、これというきっかけは特になかったですよ」と答えてくれたが、都会の生活に疲れ、西和賀の自然に癒されたいと思ったのかもしれない。

西和賀町での生活

６月に西和賀町に帰ってきてすぐ、農協スタンドの店長さんから、スタンドを手伝って欲しいと依頼され、勤務を開始して現在に至っている。

趣味はおいしいお酒を仲間たちと飲むことと、おいしいものの食べ歩きだそう。

この町の好きなところは？という質問には、「この町はおもしろい人がたくさんいます。そこが好きです。あと、四季折々の自然の風景もやっぱり好きですね」と答えてくれた。

最後には「これからも、家族が健康で仲良く暮らしていけたらなと思います」と希望を語ってくれた。

ふと思い立ち、故郷に帰る。そういう生き方もありだ。

聴いた

農事組合法人　高下

旧沢内村役場職員を退職したあと「農事組合法人 高下」に携わっている藤原輝夫さん（68）にお話を聞いた。

協力して農業を

農家の担い手不足、高齢化が進み、地区の水田農業の維持・発展が厳しい実態となっており、平成 27 年に農家の低コスト化を図るため、任意の「農事組合法人高下」が設立されました。地区の中で働いてくれる人を募り、組合員は現在 30 人。そのうちの 6 人で稼働しています。農繁期には近所のおばさんもパートとして手伝いに来てくれます。

作物は水稲、大豆、そば、花（リンドウ、グラジオラス）。農地は農業従事ができなくなった農地を集積して作付けしています。働き手は 60 代が中心となって、50 代、30 代となっています。基本的に朝 8 時から午後 5 時までの勤務時間となっていて、忙しい時は自分達で時間の調整をしています。12 月～ 3 月の冬の間は仕事がないためお休みとなります。

今いる者が後世に引き継ぐため、知恵を出しながら、水田農業の維持と今後の発展を基本方針として取り組んでいます。若手の農業従事者が育ってくれることが最大の目標です。

藤原輝夫さん（68）

カタクリ園の下草刈り作業（平成 30 年 10 月撮影）

今語り

貝沢に花の彩りを

ヤマザクラやカタクリ、レンゲツツジなど季節の花を貝沢に。貝沢牧野組合の活動をご紹介

貝沢牧野組合では毎年この時期に「銀河の森、カタクリ群生地」の整備事業として下刈り作業を実施しています。組合員 45 名ほどでの作業となりますが、年々カタクリも広がり、沢山の観光客が訪れて地域の春の一大イベントとなってきました。

また 5 年ほど前から、毎年牧場の敷地内にヤマザクラの植樹も進めてきました。西和賀町内屈指のお花見の名所をめざしています。

桜が終わると次はレンゲツツジ園の群生も見頃となります。早春から初夏にかけておおいに楽しんでいただける「花の貝沢牧場」に向け、今後も取り組んで行きます。岳のふもとの風景を「わがやさん」のおそばとセットで是非堪能ください。

銀河の森のチェーンソーアート

作業終了後の集合写真、後方は高下岳（平成 30 年 10 月撮影）

ふるさとの風習

伝統

西和賀町内に現存する２軒の茅葺屋根。
そのうちのひとつを、冬に向けて雪囲いする様子を取材しました。

この川舟の家、旧石井家は、明治初期に建てられた築 140 年の古民家で、地元の素材で地元の職人が３年の年月をかけて建築した。

瀬川さん夫婦は、NPO 法人西和賀文化遺産伝承協会で活動していた広瀬龍一さんの意志を継ぎ、保存活動を継続してきた。茅葺屋根が傷んできたので、2012 年より４年をかけて屋根の差し替えを行った。予算がなかったので募金を集めたり、カヤを自分達で調達したり、秋田から職人に来てもらい「差し茅講習会」という形を取るなどの工夫をすることで費用をおさえ、屋根の差し替えを実現させた。

この日は、冬に向けて家の周りをぐるっと茅で覆う雪囲い（家閉じとも言う）作業を取材させてもらった。材料となるススキは、瀬川さん夫婦や仲間たちで刈ったもので 1000 束つくった。萱刈りを始めてこの日で 14 日目だそう。家の周りに木で骨組を作り、その上にススキを括り付けていく。夫婦の阿吽の呼吸で、どんどん囲い作業が進んで行く。

屋根の葺き替えは 20 ～ 30 年に１回、回ってくる。お互いの家の作業を手伝うと、作業でお返しするという「結」で行われていた。

ご夫婦は、西和賀町槻沢にある小野家（旧竹澤家）の茅引き屋根の修復も手掛けており、来年４月頃に行なう予定だ。この家はもう２～３年程修理に時間がかかるという。

自然観察指導員として瀬川氏自身が代表を務める「カタクリの会」をはじめ、西和賀の自然に魅せられ写真家としての活動をしている中で、写真を撮らせてもらっている西和賀へ恩返しのつもりで古民家の再生に関わっていると話してくれた。

瀬川 強（つよし）さん（63）　陽子（ようこ）さん

強さんは写真家、カタクリの会代表、NPO 法人西和賀文化遺産伝承協会理事で、妻陽子さんと共に活動をおこなう。

瀬川強写真展は 2019 年３月 31 日まで宮沢賢治イーハトーブ館で行われている。

カタクリの会が主催する「自然観察会」や西文協としての茅葺古民家保存活動など、様々な活動を行っている。